

PAI 原子力産業セミナー2020 開催報告

2019 年 4 月 17 日

(一社) 日本原子力産業協会 人材育成部

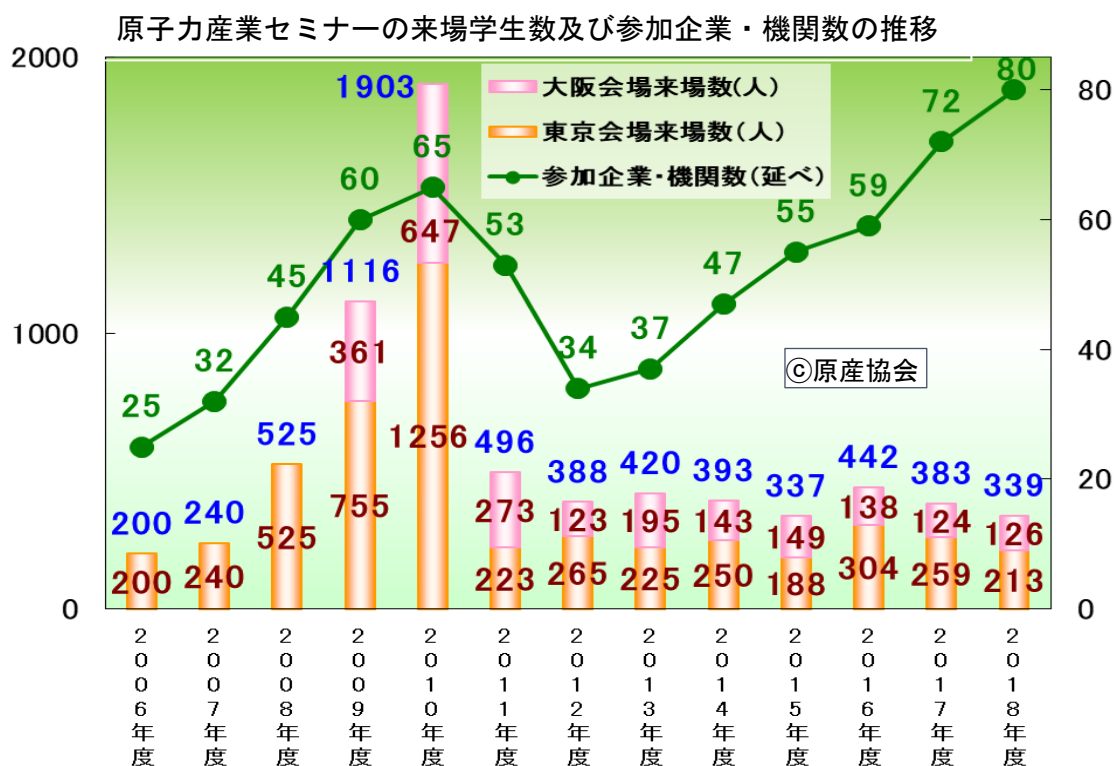
原産協会は関西原子力懇談会と共催で、原子力産業界の人材確保支援と原子力産業への理解促進のため、合同企業説明会「PAI 原子力産業セミナー2020」を、3 月 3 日(日)に東京・秋葉原、3 月 6 日(水)に大阪・梅田で開催した。来場学生数は震災以来、減少傾向で、今回、東京と大阪会場に来場した学生は 339 人(東京 213 人、大阪 126 人)で、昨年より 44 人減となった。一方、出展企業・機関数は東京・大阪合わせて 80 社、昨年より 8 社増で 2011 年度以降最多となり、原子力産業界の人材採用の強いニーズが伺える。

来場学生数は、2006 年度の開始(来場数 200 名)以降、認知度の定着とともに 2008 年度にかけて増加(同 525 名)、その後、原子力の海外展開などの「原子力ルネサンス」に注目が集まったことなどから、2010 年度にかけて大幅増加したと考えられる(同 1,903 名)。2011 年 3 月の事故以降は来場学生数が大幅に減り、300~400 名程度を推移している。ここ数年の学生の減少は、就活の早期化・多様化が原因と考えられる。

1. 概要

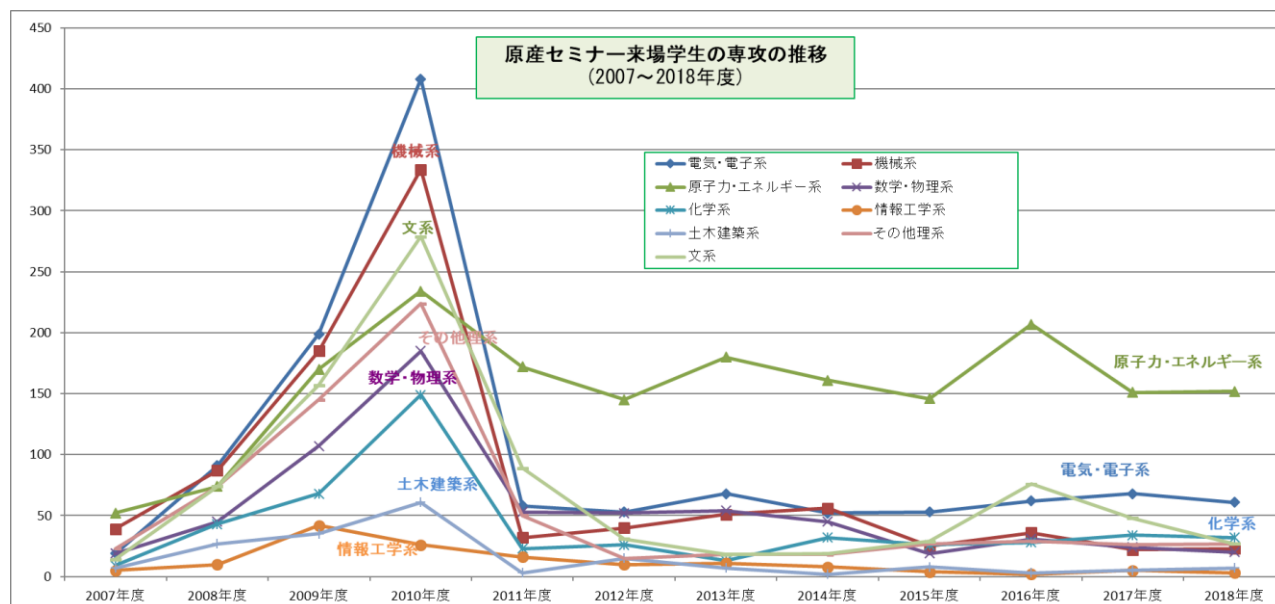
() 内の数字は昨年度

	東京会場	大阪会場	
開催日	2019 年 3 月 3 日(日)	2019 年 3 月 6 日(水)	
開催場所	秋葉原 UDX ビル AKIBA SQUARE	梅田スカイビル ステラホール	合計
来場学生数	213 人(259 人)	126 人(124 人)	339 人(383 人)
参加企業・ 機関数	46 社(41 社)	34 社(31 社)	80 社(72 社)

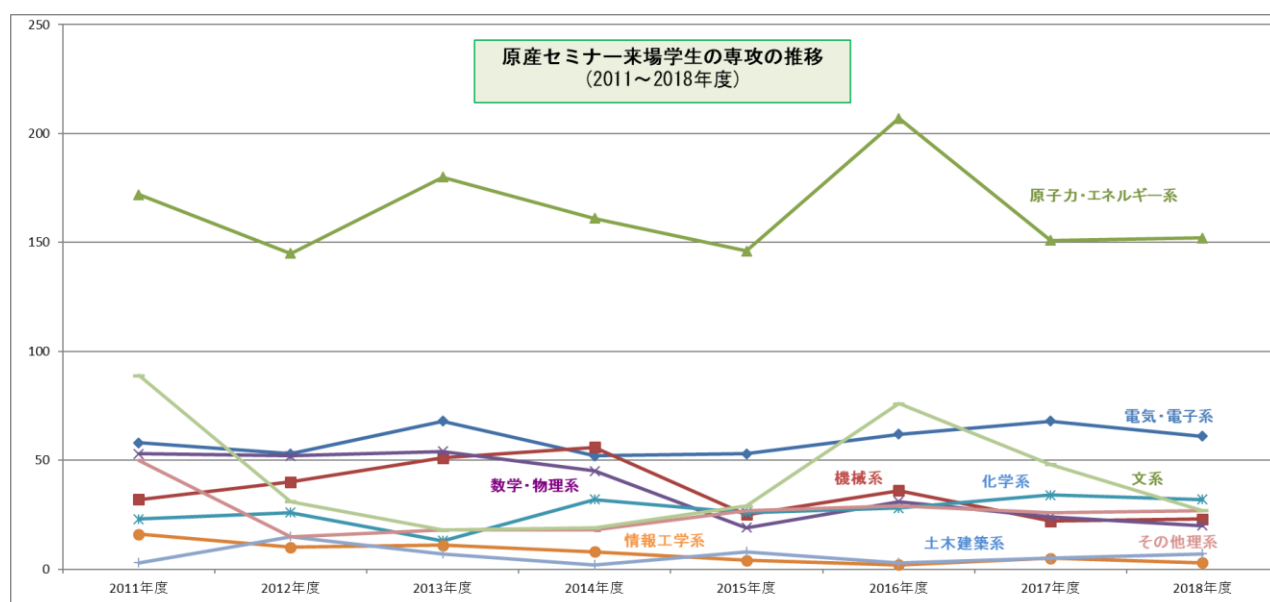


2. 来場学生の学科別人数の経年変化（東京会場＋大阪会場）

ここ数年間の来場学生の学科・専攻には大きな変化はない。2018年度は、多い順に、①原子力・エネルギー系 152人（43%）②電気・電子系 61人（17%）③化学系 32人（9%）④文系 27人（8%）⑤その他理系 27人（7%）⑥機械系 23人（6%）⑦数学・物理系 20人（6%）⑧土木建築系 7人（2%）⑨土木建築系 5人（1%）⑩情報工学系 3人（1%）となっている。大学の学科大括り化のため、一部の大学の電気電子系には、原子力専攻の学生が含まれている。（学生の自己申告の為、一人の学生が複数の専攻を選択している場合もある）



・同 2011 年度以降の来場者の専攻

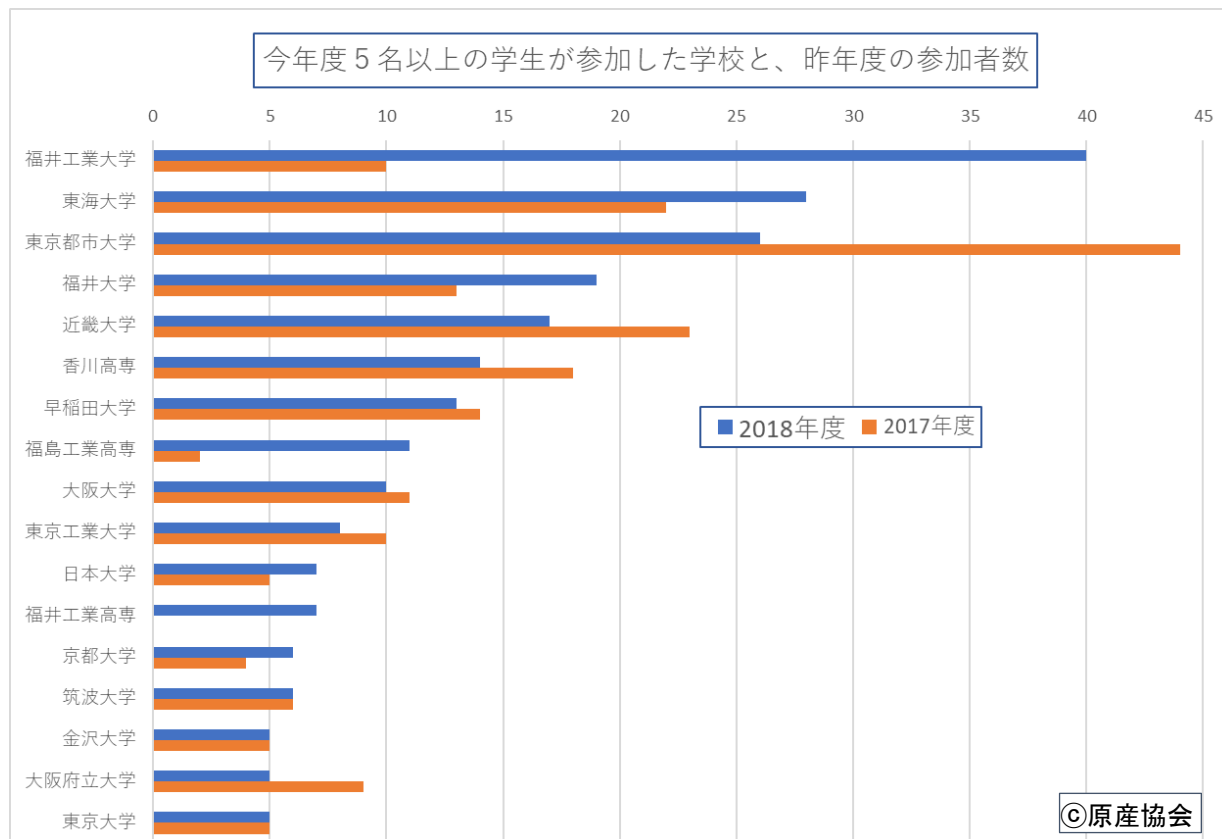


3. 参加企業・機関一覧（＊：初参加５社）

出展企業	東京	大阪
電力関連企業		
1 北海道電力(株)	○	
2 東北電力(株)	○	
3 東京電力ホールディングス(株)	○	○
4 中部電力(株)	○	○
5 北陸電力(株)	○	○
6 関西電力(株)	○	○
7 中国電力(株)		○
8 四国電力(株)		○
9 九州電力(株)	○	
10 J-POWER(電源開発(株))	○	
11 日本原子力発電(株)	○	○
12 日本原燃(株)	○	○
13 東京パワーテクノロジー(株)	○	
14 東電設計(株)	○	
15 (株)テプコシステムズ	○	○
16 原電エンジニアリング(株)	○	○
17 原燃輸送(株)	○	
重電メーカー		
18 三菱重工業(株)	○	○
19 (株)日立製作所	○	○
20 東芝エネルギーシステムズ(株)	○	○
21 富士電機(株)	○	○
プラント・エンジニアリング企業等		
22 (株)アトックス	○	○
23 MHI NSエンジニアリング(株)	○	
24 (株)オー・シー・エル		○
25 (株)ケーイーシー	○	○
26 原子燃料工業(株)		○
27 (株)クリハラント	○	○
28 (株)原子力エンジニアリング		○
29 (株)コーガアイソトープ		○
30 (株)神戸製鋼所＊	○	
31 新日本空調(株)	○	
32 セイコー・イージーアンドジー(株)	○	
33 太平電業(株)		○
34 (株)千代田テクノル	○	○
35 (株)東京エネシス	○	○
36 東芝プラントシステム(株)	○	○
37 日本エヌ・ユー・エス(株)	○	
38 (株)日本環境調査研究所	○	○
39 日本原子力防護システム(株)	○	○
40 (株)NESI	○	○
41 (株)日立プラントコンストラクション	○	○
42 (株)フジキン＊	○	
43 宝栄工業(株)＊	○	
44 ホニー工業(株)＊	○	
公益・独立行政・研究法人		
45 (公財)核物質管理センター	○	○
46 (一社)原子力安全推進協会	○	○
47 原子力規制委員会原子力規制庁	○	○
48 原子力人材育成・確保協議会	○	
49 原子力発電環境整備機構	○	○
50 (一財)電力中央研究所	○	
51 (国研)日本原子力研究開発機構	○	○
52 (一財)発電設備技術検査協会	○	
53 イーター国際核融合エネルギー機構日本国内機関＊	○	
	46	34

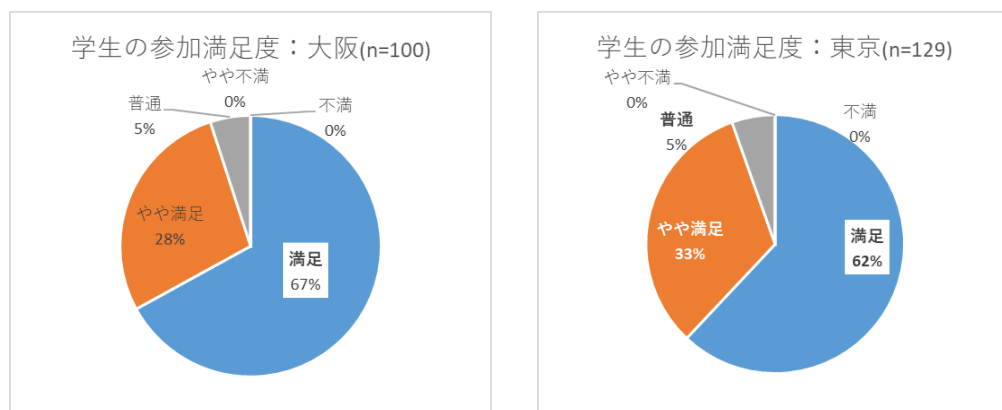
4. 来場学生のデータ（大学名）

今セミナーでは、85校から339人の学生が来場した（昨年度は102校から383人）。東京会場には64校から213人が来場（昨年度は78校から259人）、大阪会場には30校から126人が来場した（同31校、124人）。



5. 来場学生の満足度と主な感想

東京・大阪会場とも、来場した学生のうち「満足・やや満足」と答えた学生は95%であり、不満・やや不満は0%と、非常に高い満足度であった（昨年度も同95%）。



学生の感想（東京）

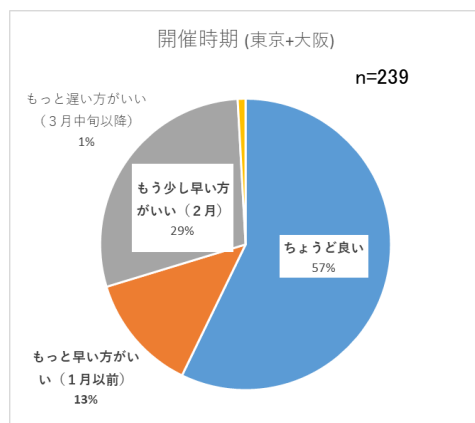
- ・学内セミナーでは聞くことができない企業について知ることができた。
- ・これまで主要電力会社のことしか知らなかったが、その関連企業や子会社にも魅力的な企業が多いことを知った。
- ・将来の原子力事業に関する企業ごとの考えを聞くことができた。企業がネガティブな要素についても明かしつつ、論理的に説明してくれた。
- ・原子力発電はマイナスのイメージが強かったが、それを支える人たちの姿が魅力的だった。

- ・全く知識がない状態だったが、文系にもわかりやすい説明をされて理解が深まった。
- ・参加学生が少ない分、人事の方と近い距離で話すことができたのが良かった。
- ・3月以前に行ってもらえれば他の就職活動とかぶらないのでそこが残念。2月中旬だとありがたい。
- ・もっと早い時期にこのような説明会があると企業研究がスムーズに行えたと思う。

学生の感想（大阪）

- ・人事の方と近い距離でお話しする機会ができてよかった。
- ・将来の進路選択において、参考となるような説明会にすることができました。
- ・原子力に限定されている点で良かったが、出展企業のバリエーションが少ないという点で物足りなかった。

・開催時期（学生）

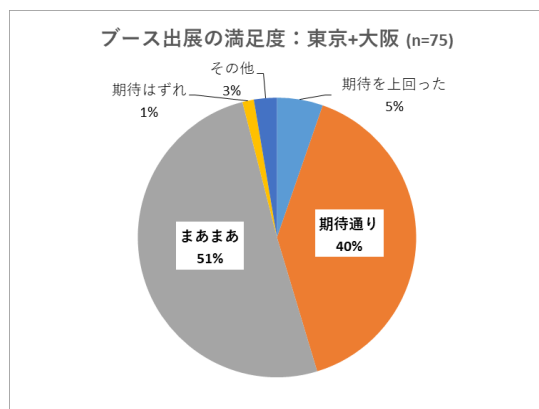


開催時期について、学生からは、「ちょうど良い」が 57%（東京 54%、大阪 61%）との感想がある一方、2月中のもう少し早い時期が 29%（同 30%、27%）、1月中以前のもっと早い時期が 13%（同 14%、12%）であり、42%が時期を早めるべきとの意見であった。

6. 参加企業・機関の感想・満足度

東京と大阪会場に出展した企業の満足度（東京・大阪合計）は、「期待を上回った」が 5%・4 社（昨年度 13%）、期待通りが 40%・30 社（昨年度 21%）、「まあまあ」が 51%・38 社（昨年度 42%）、「期待はずれ」が 1%・1 社（同 10%）、その他が 3%・2 社。「まあまあ」以上の評価は 96%・72 社で、昨年の 75%・54 社を上回った（今年度は 5 社が未回答）。

東京会場と大阪会場を比べると、東京会場が来場学生数で 1.7 倍、1 ブースあたりの学生数が 1.3 倍。出展者アンケートによると、1 社あたりの平均訪問学生数は、東京が 24.5 人、大阪が 17.3 人と、東京は大阪の 1.4 倍であった。東京と大阪の訪問学生の数の差が、出展企業の満足度の差につながったものと考えられる。



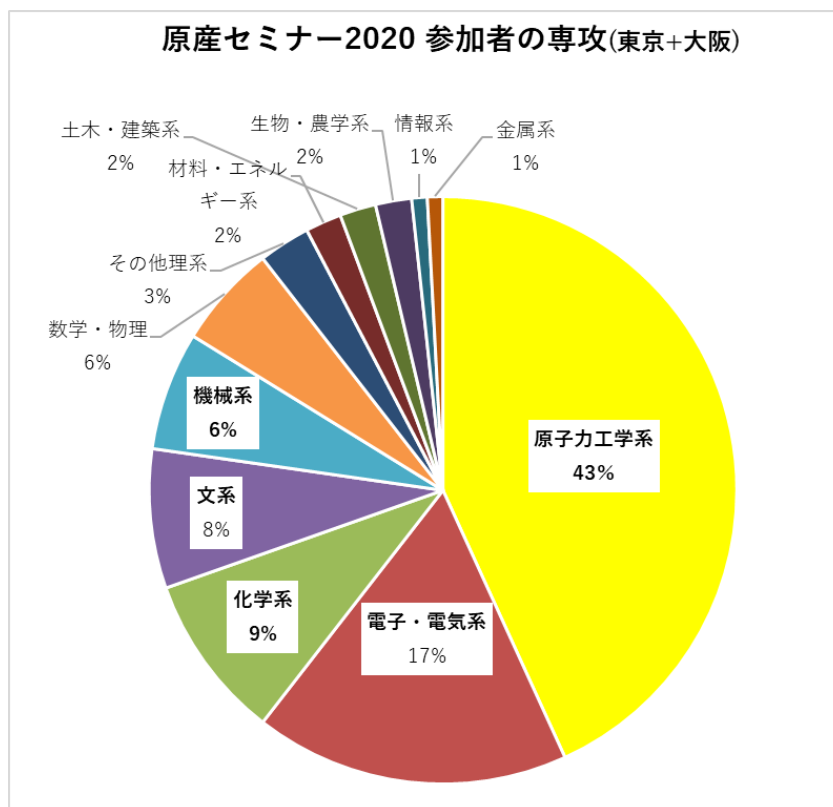
○ 出展企業・団体の主な感想

- ・当社に興味のある学生から、初めて聞く学生など、幅広く聞いてもらえた。
- ・学生全体の人数が少ないような気がする。学生数は少なかったが、関心は高かった。
- ・原子力関係（とくに廃止措置）を志すコメントが聞かれた。例年通り、興味をもってもらえたと思われる。とても、好印象である。
- ・原子力産業に関する興味を強く持っている学生が多く、企業研究も進んでいる。しっかり事前勉強している学生が多く、有意義な説明と意見交換ができた。

7. 来場学生のプロフィール

東京・大阪会場に来場した学生のプロフィールは以下の通り。

- ・会員企業のニーズを踏まえ、理系学生を中心に集客を行ったため、理系・文系比は、東京が理系 92%、文系 8%、大阪会場は同 94%、6%で、昨年度より理系の割合が高くなった。
- ・女子学生の割合は両会場合わせて 15%で、昨年度並み。会員企業には理系女子学生への強いニーズがある。
- ・東京・大阪両会場に来場した学生の専攻の割合は以下の通り。



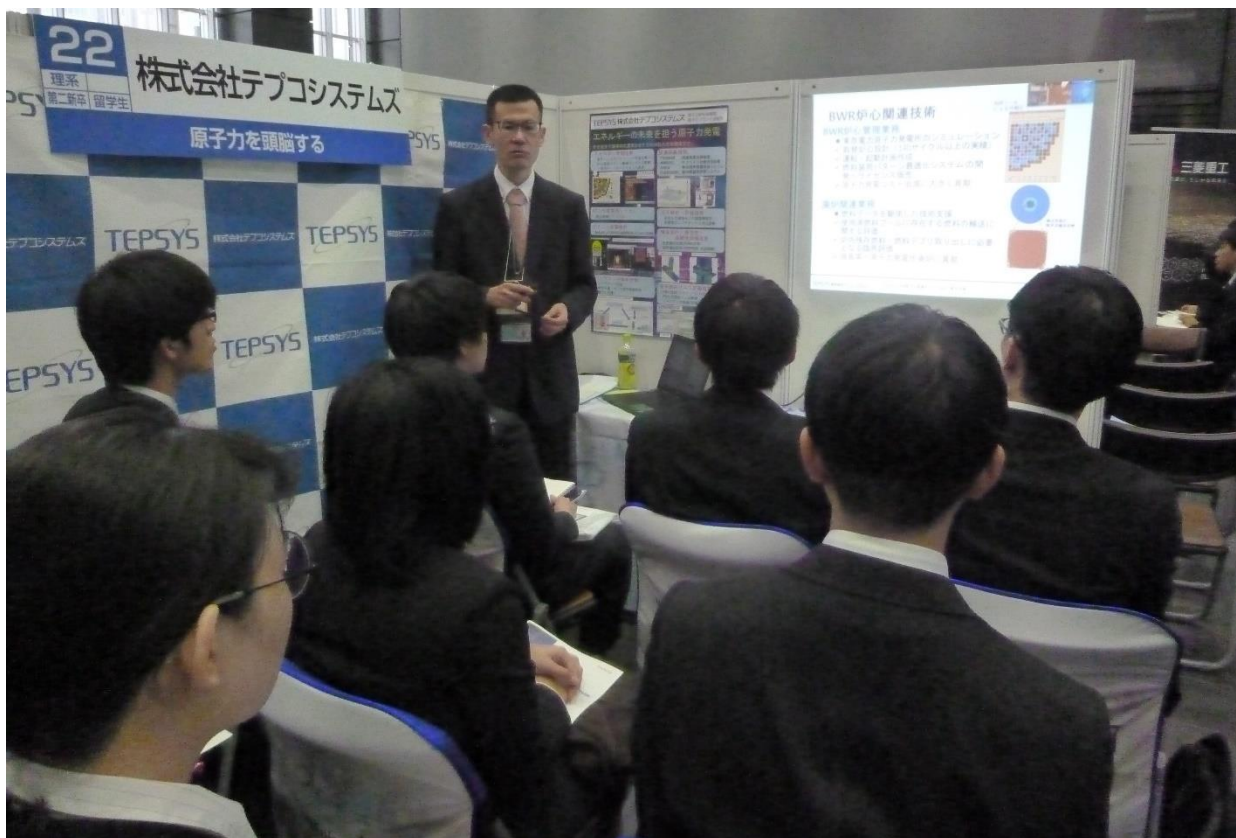
8. 後援・協賛

以下の通り、17 団体・機関からの後援・協賛を頂いた（順不同）。

後援：原子力委員会、文部科学省、経済産業省、原子力人材育成ネットワーク

協賛：応用物理学会、国立高等専門学校機構、電気学会、日本化学会、日本核物質管理学会、日本機械学会、日本経済団体連合会、日本原子力学会、日本工学教育協会、日本電気協会、日本電機工業会、日本保健物理学会、プラズマ・核融合学会

9. 写真 ＜東京会場＞



ブースで説明を聞く学生の皆さん

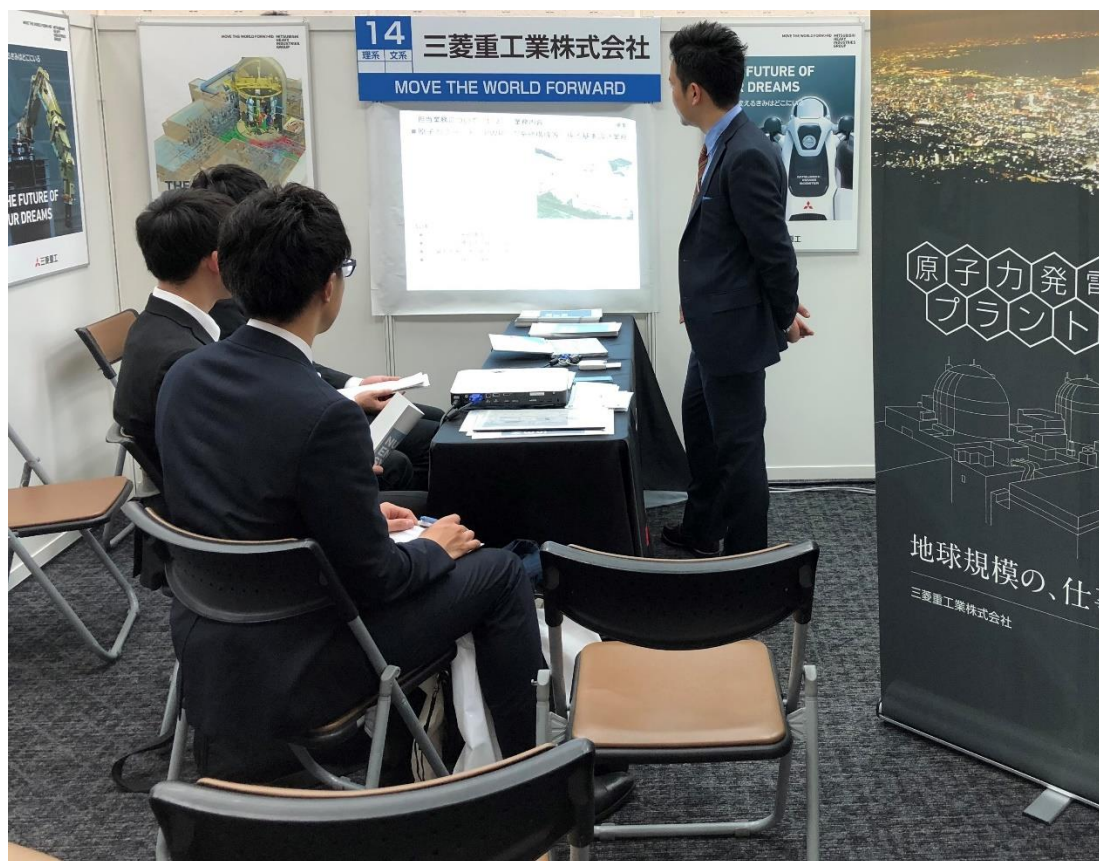


会場（ブース）の様子

＜大阪会場＞



会場（ブース）の様子



ブースで説明を聞く学生の皆さん

10. マスコミの報道ぶり

- ・ 東京会場ではマスコミ 5 社が当日取材を行った（日刊県民福井、電気新聞、読売新聞、週刊ダイヤモンド、仏 La Croix 紙）。
- ・ 大阪会場には、読売テレビ、産経新聞（2 名）、朝日新聞、電気新聞の 4 社・5 名が取材した。読売テレビは「すまたん」のニュースで放映した。

以上